

災害復旧支援による豊かな暮らしの確保への貢献

ダイセキは取引のある約5,900の工場から排出される年間111万tの産業廃棄物の処理を行っています。地震や洪水などの自然災害が発生した際は、ダイセキの持つ全国7事業所と収集運搬車両234台のネットワークにより、被災し

た取引先にいち早く収集運搬車両にて駆け付け、復旧支援を行っています。人々の豊かな暮らしの確立には製造業、サービス業の発展が必要不可欠です。ダイセキは、縁の下の力持ちとして日本のモノづくりを支えています。

ダイセキの主な災害復旧支援について

東日本大震災(2011年)

東日本大震災の発生により、東日本に生産拠点を置くダイセキのお客様の多くが地震と津波により被災され、重油等が土壌、海、河川に流出する事態が発生しました。重油は水に溶けないため、流出すると周囲に広がり、汚染が拡大します。ダイセキの関東事業所及び千葉事業所を中心に、緊急体制を敷いて、お客様の救援活動に向かいました。関東事業所の収集運搬車両は、栃木県から緊急車両としての認定を受けたことで、高速道路を優先的に通行することができ、速やかに被災されたお客様の元へ駆けつけることができました。

被災した工場の廃液処理や復旧支援を行ったところ、お客様から感謝状を頂きました。これを機に、お客様との信頼関係がより一層深まったと感じています。

佐賀県豪雨(2019年)

佐賀県武雄市で発生した集中豪雨による河川の氾濫により、付近の工場から油の流出が発生したことでダイセキに支援要請がありました。ダイセキの九州事業所を中心に、流出した廃油の回収と処理を行いました。その後、武雄市より感謝状を頂きました。

能登半島地震(2024年)

1月1日に能登半島地震が発生した際、ダイセキは自社の社員の安否と設備の異常有無を確認をした後、1月3日に北陸事業所と名古屋事業所から被災された石川県、富山県のお客様の救援活動に向かいました。お客様から「復旧までに半年はかかると見込んでいたものが早期に復旧できた」、また「食堂やお風呂等のライフラインが復旧されたおかげで社員とその家族に使ってもらえるように開放することができた」といった喜びの声を聞くことができました。



能登半島地震の復旧支援の様子